

## 各社の役割について

### ◆富士通株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：山本 正巳）

富士通は、ICT を活用して、お客様のビジネスの変革をお手伝いしており、今回の「宮城ものづくりクラウドセンター」には、富士通で培ったものづくりノウハウや最先端の IT 基盤（開発環境：エンジニアリングクラウド）の提供を通じて、ものづくりの高度化を支援します。

#### ① 画面遠隔転送技術 RVEC（レベック）（Remote Virtual Environment Computing）

RVEC（レベック）は、アプリケーションの改変なしに、従来の 10 分の 1 のデータ転送量でコンピュータの画面を別のコンピュータに送る技術です。従来は専用回線でなければ不可能であった CAD などのソフトの遠隔利用が公衆回線（フレッツ光など）で利用できる可能性が高まります。

#### ② 開発環境：エンジニアリングクラウド

富士通でも、エンジニアリングクラウドを利用して、スーパーコンピュータ「京（注1）」やサーバ、ネットワーク、パソコン、スマートフォンの開発に活用しています。さらに、エンジニアリングクラウドに豊富な設計ルールの高速チェック機能やシミュレーション機能を付加することで、製品の開発期間短縮、品質・性能の向上に貢献してまいります。

### ◆アルプス電気株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：片岡 政隆）

電子部品メーカーであるアルプス電気は、宮城県地区に開発設計部門、生産準備・金型部門などを集結しています。アルプス電気は、宮城県には古川工場をはじめ北原、湧谷、仙台開発センター、角田の拠点があります。宮城県を中心とした中小製造業との取引やものづくりの経験・知見を「宮城ものづくりクラウドセンター」の活用に役立てます。

アルプス電気では、地元の中堅・中小製造業との取引も多く、今回の震災の影響を受けた取引先もあります。地元貢献として、今回のクラウド活用を通して地元企業の活力向上に寄与していきたいと考えています。

### ◆東京エレクトロン宮城株式会社（本社：宮城県黒川郡、代表取締役社長：伊藤 博道）

東京エレクトロン宮城は、半導体製造装置関連大手である東京エレクトロン株式会社の 100%子会社です。2011 年 5 月に山梨県から宮城県に進出してきました。

そのため、取引先の拡大など地元との関係性強化を積極的に推進したいと考えており、今回の「宮城ものづくりクラウドセンター」の活用を通して、地域貢献を推進していきたいと考えます。

### ◆宮城県産業技術総合センター（所在地：宮城県仙台市、所長：伊藤 努）

宮城県産業技術総合センターは、宮城県が設置した工業系の公設試験研究機関です。地域の「ものづくり企業」を継続的に支援するために、技術支援、人材育成、技術開発などの幅広い企業支援サービスを提供しています。

「宮城ものづくりクラウドセンター」では、クラウド利用の実証試験を通して、次世代のものづくり基盤として期待されるクラウド環境のノウハウを蓄積し、これを基に、地域の中堅・中小企業へ普及啓発を行い、震災復興と更なる産業発展に向けて役立てていきたいと考えています。

**【 注釈 】**

(注 1)京:

理化学研究所と富士通が共同で開発し、2011 年 6 月、11 月の TOP500 で世界一の性能を達成したスーパーコンピュータ。